

愛川高等学校 令和7年度 第1回学校運営協議会 議事録

開催日： 令和7年6月23日（月） 10:00～11:00

出席者： 石田 裕昭（神奈川工科大学経営管理本部企画入学課担当理事）
今井 信一（桜美林大学高大接続アドバイザー）
飯田 哲昭（愛川町教育委員会指導室長兼教育開発センター所長）
橋崎 友聰（愛川高等学校PTA会長）
大石 進（地域学校協働本部「明日楓会」会長）
杉山 治久（愛川高等学校校長）
高間 明浩（愛川高等学校副校長：事務局）
坂野 敏子（愛川高等学校教頭：事務局）
矢崎 文治（愛川高等学校：書記）
欠席者： 林 繁（愛川高等学校同窓会長）

1. 校長挨拶

地域に必要とされ愛される愛川高校にしていきたい。ご意見や良いアイデア等があれば頂戴したい。

本校には外国につながりのある生徒が500名中100名と多い。町内のある小学校では400名中100名が外国につながりのある生徒である。本校が地域に必要とされる学校になるためにも、外国につながりのある小中学生の受け皿となり、暮らしやすい・過ごしやすい学校にしていきたい。

2. 副校長より配付資料に関する報告（Q：質問 A：回答 C：コメント、敬称略）

（1）学校運営協議会活動状況報告書（令和6年度）

○学校評価部会において、第三者による視点として有識者による評価をすることとなる。昨年度は石田委員と今井委員にお願いしていたが、今年度も引き続きお願いしたい。

A) 今年度も承知した。（石田、今井）

○学校運営協議会の会長も昨年度に引き続き石田委員にお願いしたい。

A) 今年度も承知した。（石田）

○令和6年度の委員数は8名だったが今年度7名で運営する。

（2）令和6年度 学校評価報告書（実施結果）

○第3回の協議会でいただいた意見は、学校関係者評価欄に記載している。

（3）学校運営協議会運営計画書

○第1回地域連携部会（明日楓会）は7月23日（水）に開催予定である。

Q 1) 本日欠席の林委員から第2回（10月）と第3回（3月）の開催日程を早めに決めてほしい旨の要望がある。有識者として石田委員と今井委員には必ず出席いただきたいが、今から日程調整は可能か。

A 1) 火曜日以外なら調整はある(石田)。まだわからない(今井)。

Q 2) 昨年12月は書面開催だったが、今年はどうするのか。

まとめる側としては書面開催で文書をいただいた方が都合がよい。

A 2) 承知した。12月は書面開催の方向ですすめる。

3月の開催に向けては、学校側の校内評価を1月に送付する。

(4) 神奈川県立愛川高等学校グランドデザイン

昨年度から変更はなし。

(5) 学校教育計画（令和6年度～令和9年度）

昨年度策定した4年計画は変更なし。

(6) 令和7年度 学校評価報告書（目標設定）

○教育課程・学習指導

一年間の目標は生徒の思考力・判断力・表現力を培い、コミュニケーション力を育成することとした。ICTツールの積極活用を推進しているが、電子黒板の活用が不十分等で達成状況は芳しくない。

今年度から3年間、県教育委員会から「確かな学力育成推進校」の指定を受けた。

授業改善等に取り組み、生徒による授業評価で肯定的な評価が80%以上となるよう展開を図る。

○生徒指導・支援

遅刻回数を減らす方策として、朝学習に取り組んでいるが期待した効果が表れていない。

職員会議等で目標を共有し対応をすすめる。

○進路指導・支援

明日楓会活動を含めた地域と協働した活動に関して、生徒の参加意欲が高まらず苦慮している。

県央地区のインターンシップも参加者が伸び悩んでいる。

引き続きインターンシップやボランティア活動等の体験活動を推進していく。

○地域等との協働

外国につながりのある小学生の放課後学習支援（愛川町）に生徒5名が応募し、小学校3校で活動している。

新たな試みとして和太鼓の活動を通じて地域連携をすすめていく。

○学校管理・学校運営

残業が45時間／月以上の職員が5名いる。衛生委員会を中心に注意喚起等で改善を図っている。（4月・5月連続5名、うち1名は3月から4か月連続）

Q 3) 生徒指導・支援の今年度の評価観点を「年間遅刻回数60回超の生徒数を前年度比20%減」としている。同じく問題行動発生件数も前年度比20%減としている。どちらも高い目標だが何か事情があるのか。

A 3) 生活指導グループリーダーを中心に策定した目標である。

2年生、3年生は6月23日時点でゼロだが1年生は特別指導が続いている、厳しい目標ではある

Q 4) 地域等との協働の今年度の評価観点は次のどちらの意味か。

・「連携生以外の生徒が」　　・「連携生以外の生徒も含め」

A 4) 「連携生以外の生徒が」である。

防災関係では昨年も連携生以外が参加した実績があり、可能と考える。

(7) 卒業生の進路指導

40期は上智に1名、桜美林に2名 神奈川工科に9名等が進学した。

今年度も国際教養大学をめざす生徒などがいる。

スピーチコンテストにおいては3年生がフィリピンから本校に入学した1年生と共に頑張っている。

(8) 不祥事ゼロプログラム

今年度から3年計画となった。毎年検証する必要があるため表題は「令和7年度 神奈川県立愛川高等学校不祥事ゼロプログラム」とした。

3. 意見交換

Q 5) 電子黒板の活用が停滞しているとのことだが、電子黒板とはどういうものか。

A 5) 全教室に設置している。板書もできれば事前に作成した資料も表示できる。

Q 6) 大学では教員が事前にパワーポイント等で資料を作成し、授業を効率的におこなっている。便利さが教員に理解されれば活用が進むのではないか。

A 6) ベテランほどICTへの抵抗感がある。今回のご意見は職員会議でも伝える。

Q 7) どのような経緯で電子黒板を導入したのか。

A 7) 神奈川県が一律で導入した。

C 1) ほとんどの小中学校ではパワーポイントの資料をモニターで見せながら授業している。文字を書くことが減ったことが課題となるほどに、こうした授業が小学校にも普及した。

C 2) 教材で使う資料は各教科で共有すれば効率的と思う。定期テストも共通問題なので輪番で教材を作成することが望ましい。しかし教員の発想がまだそこまで至っていない。

C 3) タブレットは各家庭で購入してもらっているので職員の方で活用しきれていないのは問題である。(求められる力の育成に結び付けられていない)

C 4) 本校内でも活用している職員はいる。活用現場を見るよう促し、活用例を共有させたい。授業観察後の意見交換などでも啓発のための声掛けをしている。

Q 8) 昨年度は多言語翻訳授業など素晴らしい授業があったが今年度も継続するか。

A 8) Zoomの有償ソフトについて、県に予算措置をしてもらったが翻訳精度の低い言語がある。マイクロソフトの無償ソフトなどと比較検討中である。方向性が決まったら神奈川工科大学にもお知らせするので協力いただきたい。

C 5) 神奈川工科大学でも外国につながりのある学生が増えている。大学としても水平展開を考えているので良い方向にすすめていきたい。

Q 9) 残業が特に多い職員が1名いるが原因は何か。

A 9) 1月・2月は20時間超だったが、3月は県教育委員会から指定を受けた「確かな学力育成推進校」の報告書作成のため時間を取られ60時間超となった。4月～6月も多い傾向が続いている。当該職員は今年度から衛生委員会のメンバーであり、委員会でも

注意喚起はしているが改善に至っていない。

引き続き改善に向け取り組んでいく。

4. その他

第2回学校運営協議会（12月予定）は書面開催

第3回学校運営協議会日程（案） 令和8年3月2日（月）13時30分～（予定）

以上